





4月18日、新橋駅前、北朝鮮の危機と対策について街宣を行った幸福実現党積量子党首。

**②北朝鮮にいる日本人 (拉致被害者)**  
北朝鮮による拉致被害者はどうなるのか。安倍首相も答弁しているように、基本的に米国に頼るよりほかに、日本独自に行動を取ることは難しい。

しかし、北朝鮮有事が起きたら、拉致被害者救出の唯一のチャンネルとなる。もし北朝鮮から日本への攻撃があった場合は自衛権の行使として、自衛隊特殊部隊を派遣し、拉致被害者を救出すべきだ。

**③日本にいる日本人**  
3月30日、自民党の安全保障調査会は、「北朝鮮の脅威が新たな段階に入ったとした上で、必要だ。しかしながら、他国のミサイル基地などを攻撃する「敵基地攻撃能力」の保有を政府に提言したが、議論は低調。弾道ミサイルの着弾を想定した住民避難訓練も先月、秋田県男鹿市で行われた1回のみだ。

一方の野党は、北朝鮮が挑発行為を繰り返すなかでも、「森友学園問題」で安倍首相の揚げ足取りに終始し、国会議員に与えられた質問の機会を活かせていない。

国防意識はゼロと評してよい。昨今の状況に鑑みれば国会では、国防のための補正予算成立に取り組みつつ、有事法制の不備をどのようにつまみ食いするか、法改正や特措法の制定も含めて意思決定すべきだ。

幸福実現党は2009年春、北朝鮮による弾道ミサイルを「飛翔体」と呼び、あたかも有事でないかのようにふるまう自民党政権では国民を守りきれないという、国防上の危機意識から立党した。もとより抜本的な国防強化のためには、戦争放棄や戦力不保持などを定めた憲法9条の改正が必要だ。しかしながら、北朝鮮や中国などの脅威が増すなか、国防強化には一刻の猶予も許されない。「今、そこにある危機」に即応すべく、改憲までの間、憲法前文で謳う「平和を愛する諸国民」とは言えない北朝鮮などに対しては、憲法解釈の変更により9条を適用しないことを鮮明にし、主権国家として国際法上認められる実力の行使を可能にするよう改めて提言する。

# ミサイル着弾まで7分! 家族の安全のために必要なこと

## 1 政府による警報発令

武力攻撃やテロなどが迫る、もしくは発生した地域には、原則として特別なサイレン音を使用して、注意が呼びかけられます。そして、テレビ、ラジオや広報車などを通じて、情報や取るべき行動が伝えられます。特別なサイレン音については、国民保護ポータルサイトにてサンプル音を事前にお聴きください。  
<http://www.kokuminhogo.go.jp/>

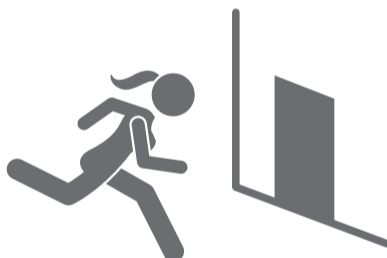


## 2 初期動作

### 生物・化学兵器の場合

【屋外】

- 口と鼻をハンカチで覆いながら、その場から直ちに離れ、外気から密閉性の高い室内の部屋または風上の高台など、**汚染のおそれのない安全な地域に避難**しましょう。



### 核ミサイルの場合

- とっさに**遮蔽物の陰に身を隠**しましょう。また、**失明するおそれがあるので爆発した方向を見ない**てください。
- 上着を頭から被り、口と鼻をハンカチで覆うなどにより、**皮膚の露出をなるべく少なく**しながら、爆発地点から遠く離れましょう。その際に、風下を避けて風向きとなるべく垂直方向に避難しましょう。
- 建物があればその中へと避難**。地下施設やコンクリート建物であればより安全です。

【屋内】

- なるべく上の階の**屋内へ避難**しましょう。
- 汚染された衣服などを脱ぐ際には、露出している皮膚に衣服の汚染された部分が触れるおそれがあります。特に頭からかぶる服を着ている場合には、はさみを使用して切り裂いてから脱ぎましょう。
- 化学剤傷病者への治療は一刻を争います**。あやしいと感じたらすぐに周囲に知らせる、速やかに警察や消防に通報するといった迅速な対応によって、その後の対処も早くなり、救命率の向上につながります。

- 爆風が危険なので、**地下施設があれば地下へ移動**しましょう。



- 窓占め・目張りにより室内を密閉し、**窓のない中央の部屋に移動**しましょう。

- 汚染物を身体から取り除くため、衣類を脱いでビニール袋や容器に密閉しましょう。その後、水と石けんで手、顔、体をよく洗いましょう。

- 安全が確認できるまでは、**汚染された疑いのある水や食物の摂取は避け**ましょう。

## 3 情報収集 (テレビ、ラジオなど)



こんな時は  
どうする？

### どこに避難すればいい？

A. 行政機関からの避難の指示が出された場合、その指示に従って落ち着いて行動しましょう。  
※全国市区町村別避難場所一覧  
<http://www.kokuminhogo.go.jp/hinan/>

### 身の回りで急な爆発が起こったら

A. 警報の発令に関わらず、以下のことに留意しましょう。  
・とっさに姿勢を低くし、身の安全を守りましょう。  
・周囲で物が落下している場合には、落下が止まるまで、頑丈なテーブルなどの下に身を隠しましょう。  
・その後、爆発が起こった建物などからできる限り速やかに離れましょう。

※この情報は、「内閣官房 国民保護ポータルサイト」の「武力攻撃やテロなどから身を守るために」をもとに作成しています。